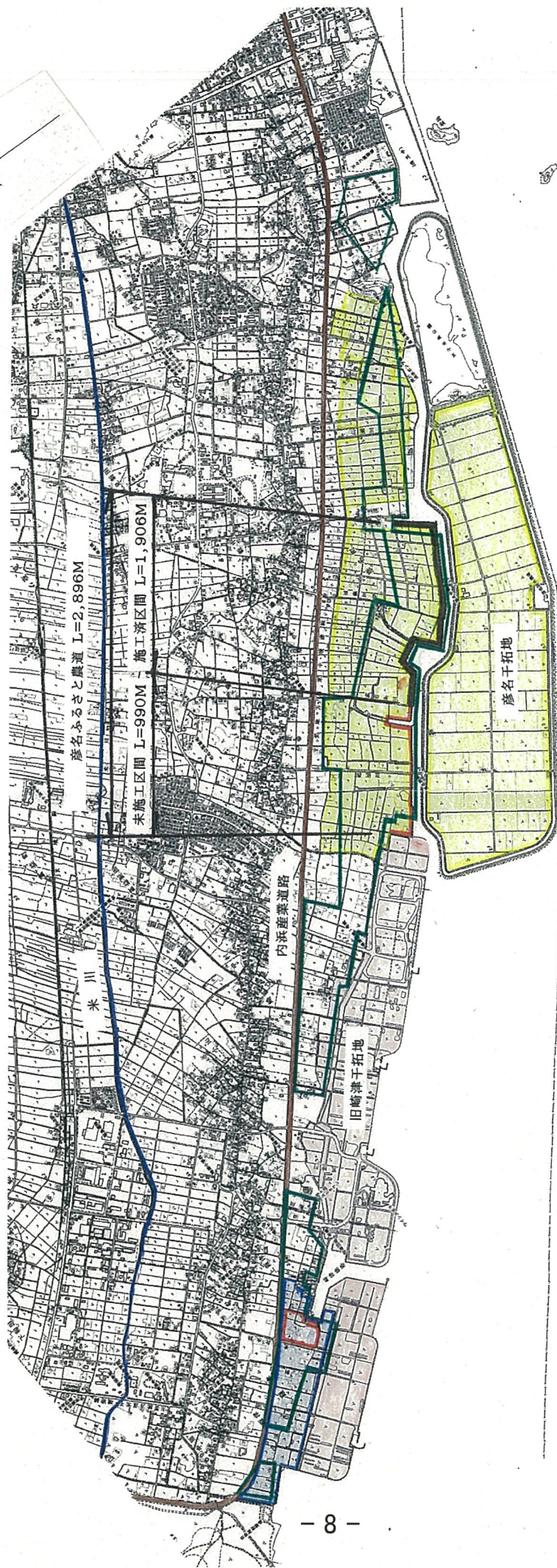






中海沿岸農地排水不良区域等平面図



凡 例	
	農振農用地区域
	崎津モデル地区 A=3.3ha
	農振農用地区域への編入 検討区域 A=21.8ha
	排水不良区域 A=104ha (TP90cm以下)

「中海の利活用に関するワーキンググループ」の検討状況

平成24年8月28日

1. ワーキンググループの概要

- (1) 趣 旨：関係機関が集まり、ともに未来に向かって中海の豊かな自然の恵みを享受・活用し継承していくための取組を考え、「利活用アイデア」として提案をまとめる。
- (2) 構 成：鳥取県 企画課 水大気環境課 西部総合事務所県民局 生活環境局 県土整備局
島根県 政策企画監室 環境政策課 自然環境課 高速道路推進課
中国地方整備局 出雲河川事務所
中国四国地方環境事務所 米子事務所
米子市企画部企画課 境港市総務部地域振興課
松江市政策部政策企画課
安来市市長室企画調整課
(注：下線は事務局。内容により上記以外の部課も適宜参加)

2. 開催経過

(1) 平成22年度

OWG打合せ会

日時：平成22年6月22日

内容：設置の趣旨、参加する機関・部署、検討の方向性等について確認、意見交換。

○第1回WG

日時：平成22年9月2日

内容：設置要綱を確認。検討の方法等を協議、まずは検討の柱5つを以下のとおり設定。

(テーマ：一体感の醸成～中海でつながる～ 水面のスポーツ利用～中海に親しむ遊ぶ
海藻の利用～中海で循環する～ 食文化～中海の恵みをいただく～
環境学習～中海を知る～)

○第2回WG

日時：平成22年11月8日

内容：現在取り組まれている既存事業等を整理。

検討の方法を確認し、テーマ毎にアイデア出しの作業へ。

○第3回WG

日時：平成23年3月17日

内容：各機関からの利活用アイデア(たたき台)を集約。内容を吟味し、方向性について確認。

(2) 平成23年度

○第4回WG

日時：平成23年6月29日

内容：利活用アイデア(たたき台)について、既存事業・既存団体との関わりや実現可能性、経費面など、個別具体的な内容について検討し、効果・波及度、実現性が高いもの(既に実施中を含む)などを抽出。

○第5回WG

日時：平成24年3月14日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

(3) 平成24年度

○第6回WG

日時：平成24年7月9日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

中海の活用アイデア

実施中・検討中のアイデア

- 【湖面湖岸の利用】 ① 中海周遊サイクリングの推進
(中海周遊コースの設定など環境を整備し「サイクリングのメッカ」としてイメージアップを図る)
- 【湖面湖岸の利用】 ② 中海周遊「EVカーでエコツアー」の推進
(充電インフラの整備等に取り組み安心して走行できるルートを実現、「環境にやさしいまち」をPR)
- 【藻の利活用】 ③ 中海の「藻」の活用
(海藻を回収して産業などへ利用することにより中海の藻の循環システムを構築する)
- 【食文化】 ④ 「(仮)中海エシカルフード」の開発・提供
(中海産品の復権を目指して公共施設等で中海メニューを提供する)
- 【環境教育】 ⑤ ラムサール条約普及啓発の取組
(中海の豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる取組を進める)
- 【一体感の醸成】 ⑥ ポータルサイトによる情報発信
(ここを見れば、中海共道湖が「わかる」「保全に参画できる」、情報発信の拠点づくり)
- 【一体感の醸成】 ⑦ 「日本風景街道」の推進
(共道湖・中海・大山圏域の「日本風景街道」活動を県境を越えて推進する)

構想段階のアイデア

- ⑧ 「中海憲章(仮称)」の制定
- ⑨ 中海ワイズユース住民活動推進プロジェクト
- ⑩ 環日本海国際トライアスロン in NAKAUMI
- ⑪ 環境負荷の軽減行動の指標化 ~ 私たちにできること~
- ⑫ マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり
- ⑬ ECOシップコンテスト in NAKAUMI
- ⑭ 中海周遊船の運航支援
- ⑮ 高等教育機関と連携した人材育成

① 中海周遊サイクリングの推進

提案主旨

景観や観光資源等に優れた中海周辺を、地元住民から海外の来訪者までがサイクリングで楽しめるよう、周遊コースを提示するなど、豊かな水辺環境を実感できる環境を鳥取・島根両県で一緒に「サイクリングの一大メッカ」となることを目指す。(エコな乗り物「自転車」と、水質環境にかかわりの深い「中海」を繋げ、圏域のイメージアップを図る)

提案内容

- 安全で楽しく走れるコースの設定 ○コースのマップ化とPR ○中海を楽しむための空間づくり
- 走りやすい環境づくり ○ギブアップシステムの構築 ○利便性のある環境づくり
- 記念イベントの開催や大規模大会の誘致なども念頭に

取組状況

- ・H22.12 「サイクリングロード整備検討会」(鳥取県組織)を
設置
- ・H23.10 「大山中海サイクリングマップ」を試作・公表。
- ・H24.3 「宍道湖・中海サイクリングロード連絡調整会議」
(島根県組織)を設置
- ・H24.6 専門家による検討中ルートの試走(島根県)



- ・H24.秋頃 島根県のルート案を提示
- ・以後、両県でコースの設定・調整、利用環境の整備

今後の取組の方向

コース設定、サイクリングロードとしての環境整備(サイン、道路施設修繕など)、マップの作成、PR活動、イベントの開催などの対応のため、国、両県、関係市相互の更なる連携強化を図り進める。

主な関係主体

- 鳥取県西部総合事務所(県民局、県土整備局)
- 島根県(土木部)
- 中海沿岸市 ほかに

②中海周遊「EVカーでエコツアー」の推進

提案主旨

中海周辺エリアにおいて電気自動車(EVカー)の充電施設を整備するなど、中海の水辺環境を満喫しながら安心してレンタルEVカー等で走行・周遊できる環境づくりを推進する。
 中海の水質という環境問題を身近に持つこの中海圏域で、率先して電気自動車(EVカー)の普及促進に取り組み、「環境にやさしいまち」としてPRを図る。

提案内容

- 急速充電器などインフラ整備・・・中海圏域を利用者が安心して走行できるよう、沿岸4市の主要地点に設置
- レンタカー、カーシェアリングによる利用システムの構築・・・各市で公用車として使用しているEVカーを、閉庁日に住民や観光客にレンタル等
- 普及啓発・PR・・・中海の水辺環境を満喫しながら周遊できるドライブルートの設定
 ホームページ、ブログ等を活用した情報発信



充電の様子(皆生温泉観光センター)

取組状況

H23年度

- ・EVカー(閉庁日貸出公用車)の導入 9台
 旧中海市長会 6台
 (米子市2台、境港市1台、松江市2台、安来市1台)
 松江市単独 3台
- ・H23.10.15より貸出開始
 レンタル実績
 66回(4市計:H23.10.15～H24.6末)
- ・H23.11 米子市がカーシェアリング社会実験開始
 商店街と市民等でEVカーを共同使用(非会員制)
- ・急速充電器の設置(6カ所)

旧中海市長会:4カ所

(皆生温泉観光センター、境港市役所、
 松江市役所、道の駅「あらエッサ」)

その他:由志園(松江市)

鳥取県西部総合事務所(米子市)

H24年度

- 《中海・宍道湖・大山圏域市長会》
- ・ドライブマップの作成(観光施設、観光案内所に配架)
- ・圏域で開催される環境フェアに出展して、試乗体験を行う
 などして取り組みをPR
- 《中海沿岸市》
- ・閉庁日のEVカーレンタルを各市の事業として継続
- ・米子市のカーシェアリング社会実験を引き続き継続(EVカー3台)

今後の取組の方向

市長会と両県および関係市で連携を取りながら、取り組みの普及啓発を行う。

主な関係主体

中海・宍道湖・大山圏域市長会
 関係行政機関 民間事業者等
 ほか

③中海の「藻」の活用

提案主旨

昭和30年代まで肥料や食用加工品として採取されていた海藻を「未活用資源」と捉え、新しい産業へ結びつける。回収・湖外への搬出により水質の浄化につなげ、加工して有機肥料など産業等の原材料として使用、中海の「豊富な栄養」を受けて育った農産物をいただく、といった新しい産業の創出と水質改善をともに適えた資源循環の仕組みを構築する。

提案内容

- 藻の回収……海藻刈りによる栄養塩循環システムのモデル構築
- 藻の活用……海藻農法による農業再生プロジェクト
- 活用の普及……藻の回収等住民参加型イベント、旧加茂川藻刈り体験
- 調査研究……藻の産業利用に係る成分分析、分布・現存量調査
海藻肥料の施用効果検証
- その他……海藻に関する意見交換

取組状況

【海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築事業

：両県連携事業】

H23 NPO法人自然再生センター（島根）、海藻農法普及協議会（鳥取）に委託し実施。343トン回収し利活用業者へ引き渡し。

H24 引き続き2団体に委託実施。

【海藻農法による農業再生プロジェクト：鳥取県】

H23 海藻農法導入農家50農家、導入耕地面積40ha以上

野菜市の開催、セミナー説明会の開催

H24 引き続き実施

【藻の回収参加型イベント：島根県】

H23 11月に本庄町で約30名の参加で藻刈り体験、水環境説明会、中海の幸試食会を実施

H24 両県共同で実施

【旧加茂川藻刈り体験事業：鳥取県】

H23 7月「クリーンアップin加茂川2011」に、市民、ボランティア団体、行政の約200人が参加

H24 引き続き7月「クリーンアップin加茂川2012」で実施



【調査研究：両県】

H23 藻の分布調査、現存量調査、成分分析

H24 新たに飼料化試験を実施予定（島根）
中海水産資源生産力回復調査（鳥取）

【海藻肥料の施用効果検証：鳥取県】

H23 白ネギ、トマト、サツマイモへの施用効果の検証

H24 引き続き実施

今後の取組の方向

引き続きNPOと両県が連携しながら、肥料化に向け回収コスト及び製造コストの削減検討、および販路の拡大とブランド力アップを図る

主な関係主体

- 鳥取県（生活環境部、農林水産部、西部総合事務所）
- 島根県（環境生活部、農林水産部）
- 海藻農法普及協議会、NPO法人未来守りネットワーク、NPO法人自然再生センター、中海自然再生協議会 など

④「(仮)中海エシカルフード」の開発・提供

提案主旨

かつて中海で多く水揚げされ、地域の食文化を形成していた中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、食文化を復活させる。提供(食材・加工品)価格に「中海環境募金」として数%の一定額を上乗せし、NPO活動等への支援金とするなど、環境意識の醸成と、中海産の恵みを循環利用する取り組みとして、中海版『エシカルフード』の展開を目指す。

～エシカル (ethical)とは～

「倫理的な」「道徳的な」という意味だが、最近では「地球環境や社会に配慮している」という意味で使用。



- 特徴的な「中海産品」について情報収集
- 関係する民間、NPO等との意見交換
- 県庁に同居する食堂事業者、学校給食への働きかけ

- 提供施設と提供メニューの決定
- 取り組みのPR(創作料理コンテスト、イベント等での提供)
- 食材への「環境募金」等の検討

提案内容

取組状況

- 【中海食材の提供: H23 島根県 H24 両県連携事業】
 - H23 島根県庁食堂で中海の食材を使ったメニュー案を策定(未提供)。
 - H24 引き続き、両県の共同提供について検討。
 - H24.6.24 「中海オーブンウオータータイム2012」参加者へ提供
提供メニュー: アサリ汁、オゴノリゼリー
 - 「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業共同体(以下、「共同体」)が主体となり、鳥取・島根広域連携協働事業として実施
(参加者114名〈鳥取・島根77名、その他37名〉)
- 【中海食材の開発に関連する取組】
 - スジアオノリの養殖・加工: H23 島根県 H24 両県連携事業
 - H23 NPO法人自然再生センター(島根)が島根県と松江市の協力の下、春と秋の2シーズン実施。
延べ参加者100名程度。
 - H24 「共同体」が主体となり、規模を拡大して実施。

○アカガイ(サルボウ)復活への取り組み: 両県

- H23 稚貝放流→本庄水域はほぼ全滅(夏場の貧酸素の影響か)
- H24 放流場所の検討を行い、H24.3,6,7月に約210万個体放流。
モニタリング中。

○伝統食文化伝承: H23 島根県 H24 両県連携事業

- H23 NPO法人自然再生センター(島根)が地元(東出雲町)の住民の方の協力のもと「ゴズの昆布巻き」を作成
- H24 「共同体」が主体となり11月頃調理方法をDVDに記録保存
するとともにHPでPR

今後の取組の方向

今後も引き続きNPO、両県、関係市との連携を図り、各種取り組みを推進する。

主な関係主体

- 「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業共同体
NPO法人中海再生プロジェクト(鳥取) NPO法人自然再生センター(島根)
- 鳥取県西部総合事務所
- 島根県(環境生活部、農林水産部、政策企画局)